

平和な世界を願いしめやかに 平泉町戦没者追悼式

町主催の戦没者追悼式が8月10日、平泉文化遺産センターでしめやかに営まれました。

式には遺族ら約110人が参列。青木町長の式辞に続き、町遺族会木村会長らが追悼の言葉をささげました。

また町内の女声合唱団「コール・ファンタジー」が追悼の歌をささげ、最後に参列者が祭壇に花を手向けて静かに手を合わせ、戦争の犠牲となった肉親や先祖のめい福を祈りました。



障がい者の団体育成に貢献 県身体障がい者福祉大会会長表彰を受賞

町身体障がい者協議会の余目富夫さん(8区)と小野寺征子さん(3区)が、7月10日に大船渡市で行われた第57回県身体障がい者福祉大会で団体育成功労者の表彰を受けました。

余目さんは平成22年から2年間にわたり同協議会の会長を務められ、さまざまな運動を展開し、障がい者福祉向上のために尽力されました。また小野寺さんは同協議会の一員として活動されると同時に、平成8年から12年間にわたり、町の身体障がい者相談員として活動されました。



今年もきれいな出来栄えに グループホームけーせんの七夕飾り

グループホームけーせんの利用者が作製した七夕飾り3本が、今年も役場ホールに飾られました。くす玉の下に細長い和紙などを垂らした長さ約2.5mの吹き流しが風に揺れ、来庁者の目を楽しませていました。

8月10日に役場を訪れた同ホーム利用者は、七夕飾りの出来栄えに満足している様子でした。制作した三澤恵美子さんは「一生懸命作った飾りつけを見て、あらためてきれいにできたと思う」と話していました。



木のぬくもりに触れる 西行桜の森親子木工教室

木のぬくもりに触れながら緑の大切さを学ぶ「親子木工教室」が8月1日、西行桜の森木工芸館遊鵬で開催されました。

教室には16組40人の親子が参加。参加者は、ひらいずみ里山倶楽部会員の指導のもと、金づちやのこぎりを使って、貯金箱や本立てなど思い思いの作品づくりに取り組みました。

本立てを制作した平泉小4年生菅原光哉さんは「糸のこを使った曲線が一番難しかったけど、すごく楽しかったです」と話していました。

「平和の鐘」を打ち鳴らす 平泉ユネスコ協会文化財愛護少年団

8月15日、平泉ユネスコ協会文化財愛護少年団が中尊寺で平和の鐘を打ち鳴らしました。同少年団の団員8人が参加し、正午に合わせて、境内にある鐘を交代で突き、世界平和への願いと戦争犠牲者に追悼の思いを込めて手を合わせていました。

終戦の日に平和の鐘を鳴らすこの取り組みは、国連が2000年を「平和の文化国際年」と定めたのをきっかけに、日本ユネスコ協会連盟の呼びかけで始まりました。



交通安全を呼び掛ける 街頭啓発活動「梅干し作戦」を展開

8月2日、町交通安全母の会連合会が主催する「梅干し作戦」が中尊寺第1駐車場・第2駐車場で行われました。

この取り組みは昭和51年から毎年実施されているもので、「暑さや旅の疲れで運転事故を起こさないように」との願いを込め、疲労回復に効果があるという梅干しを配布しています。

当日は関係者ら約40人が参加。ドライバーに梅干しや交通安全のチラシなどを配布し、交通安全を呼び掛けました。



県に支援と協力を要望 県に対する要望会

県に対する要望会が8月19日、役場会議室で開かれ、町長、町議会議長らが県南広域振興局長に対し、教育・文化関係や道路・河川関係など20項目について、支援と協力を要望。①一閑遊水地事業に伴う内水被害対策②「束稲山麓の世界農業遺産」登録に向けた指導支援③外国人受け入れ態勢誘致活動④道の駅とガイダンス施設との一体整備—の4件を重点要望項目として県に説明しました。



より良い学童保育を目指す 町学童保育勉強会を開催

町学童保育勉強会(すぎのこクラブ運営委員会主催)が8月9日、すぎのこクラブで開催されました。

勉強会には約20人が参加。講師を務めた真田全国学童保育連絡協議会事務局次長は「学童保育における子ども・子育て新制度の実情と課題」と題して講演。子どもが安全で安心して生活できる学童保育の必要性和期待の高まり、学童保育の現状と課題について分かりやすく説明していました。